



静岡県議会報告

平成28年夏号



自民改革会議 いわかい五輪会
静岡県議会議員

落合慎悟



地域の声を県政に反映
ご意見ご要望をお聞かせください。



【28年度静岡県監査委員会は、本庁監査が18回、外部(県出先機関)監査は36回あり、非公開で監査内容は守秘義務となります。】



5月臨時議会で知事から監査委員の指名を受け承認されました。監査委員室は県庁東館14階にあります。監査委員は常勤委員2名と議会選出委員2名の4名で構成され、常勤監査委員の1人が代表となりますが、監査委員協議会は全員一致で決定となります。監査委員事務局は事務局長以下22名で構成され、監査班は一般8人、工事2人、特別2人で担当します。監査には定期・随時・行政監査、財政的援助団体監査、例月出納検査、決算および基金運用状況、健全化判断比率審査があります。50人以上の署名のある直接請求や1人でもできる住民監査請求があった場合は60日以内に監査結果を公表しなければなりません。この請求があった場合は、協議会をすぐに開催し、監査の実施、陳述機会の付与や請求人の立会いなど、大変な仕事量になります。



本庁監査は、7月下旬から8月中旬にかけて、県庁内の各知事部局、県警本部、教育委員会、労働委員会など18部局を4名の監査委員が部局規模により、2～4人に分かれて実施します。県内出先機関の監査は、今年度は6月から2月まで、県立高校、土木事務所、財務事務所、港湾事務所、福祉センター、警察署など36か所を実施します。出先機関の規模によって、毎年、隔年、5年に分けます。監査時間は1か所、規模により差がありますが、概ね2～5時間位です。本監査の前に、監査事務局員や外部委託の監査法人が出納帳簿・事務事業執行状況など調査します。監査委員は調査結果調書と事業報告資料を基に本監査を行います。この調査資料は膨大であり、本監査一週間前に渡されるので、監査委員は大変な作業となります。この資料だけでは業務の知識が不足で、独自に資料を集め、しっかり勉強をして本監査に臨みます。本監査では質問を大項目に分けて18～20問を2人で項目を分担し、各担当課長に問い質します。質問時間は答弁を含め、1問概ね10分程度を見込みます。監査業務は事前に事業内容を把握していなければ具体的な内容や課題、今後の進め方などを追及し、確認作業ができません。県事業は多岐にわたり、事業を知らなければ監査の意味がありません。監査は、県民の大事な税金を有効に活かしているか、職員が効率よく事業を推進しているかを調査し、監査します。監査委員は県民の負託を受け、大事な責務があります。誠心誠意、正義感を持って情に流されず、心して取り組みます。県職員は教員、警察官を含めると3万6千人余、予算規模は一般・特別会計合わせて1兆7,500億円と超大企業です。「職員の取組み方」「無駄な出費」少しの改善でも大きな効果が出ます。県民の皆様のご意見ご要望をお聞かせください。

4/19～21熊本地震災害現場視察 被災地視察は防災対策に必ず生きる。

4月14日21時半、鹿児島島のホテルに到着した時、熊本地震に遭遇。鹿児島は震度3でした。翌15日は予定通り、茶工場を視察し、鹿児島空港から福岡空港を経て富士山静岡空港に帰ってきました。16日01時半に本震発生。19日に再度、静岡空港から福岡に行き、レンタカーで南阿蘇に入った。翌早朝に南阿蘇村の土砂災害現場被災状況・救援活動を視察し、1階が潰れたアパートや住宅、落下した阿蘇大橋を確認した。阿蘇大橋の場所は危険防止の赤コーンだけで、バリケードはまだ設置されていない。地域の避難場所は長陽西部小学校で、グラウンドは自衛隊車両が使用していた。次に益城町に移動し、静岡県応援職員の被災住宅診断現場に行き、被災状況や診断結果の説明を受けた。2階建ての1階部分が崩壊した住宅が多く、直下型地震の恐ろしさを感じた。総合体育館は1,200人の避難者が足の踏み場の無い状況で寝ており、外は車中に寝泊りする車両で一杯でした。高齢者には椅子が無く、寝て過ごす状況だった。外にあるトイレには、人を跨いで行くしかなく、トイレ回数を減らすため水を控える人が多かった。被災者が「1回目の地震で避難したから助かった、家に帰っていたら2回目の地震で家が潰れ死んでいた。」更に、「熊本には地震が来ない」と今まで信じて、洪水防災対策はあったが、地震防災訓練は町内でもなかったと話していた。視察して、熊本県では地震対策が殆どなかったと感じた。

4/13～15 茶業振興議連九州視察

議連より早く13日朝、熊本県天草市のかかし村を視察し、夜、福岡で議連一行と合流した。

熊本県天草市かかし村



4月初め、テレビで『手作りのかかし280体、天草に「かかし村」の紹介があった。茶業振興議連の視察に合わせ、静岡空港発福岡行き、レンタカーで天草市国道266号沿いの「かかし村」を視察した。当日、雨予報で、「かかし」にはビニールが掛けられていた。案内所の説明員が、3月20日から5月8日まで開催され、毎週土日には、大勢の観光客が訪れ、賑わっていると解説してくれた。2009年頃から古着を着せたかかしづくりを始め、一昨年か宮地岳地区振興会が「かかしまつり」を開催している。今年『盆踊り』をテーマに、輪になって楽しむ浴衣姿の老若男女の様子を表現した。いまにも動き出しそうな人間そっくりで、表情も何とも言えない気分を醸し出していてビックリした。静岡でも真似すれば大いに受けて観光資源になると感じた。制作リーダーで77歳の碓井弘幸が村長を務めている。

鹿児島県南鹿児島市知覧 塗木製茶工場



知覧の塗木製茶工場は兄弟3人で50人ほどの期間パート社員を雇用し、茶栽培から荒茶、仕上げ茶まで煎茶と碾茶を生産している。碾茶は有機栽培で東京のインターネット販売業者に出荷する。煎茶は摘み取り5日前に寒冷紗ネット掛け、緑色を良くしていた。長さ50m寒冷紗シートはJAが特別仕様で制作している。茶園ではすべて乗用茶刈機で刈取り、茶葉はそのままダンプカーに積み込む。ダンプカーで茶工場に運び地下サイロに投入、ベルトコンベアで製茶機械に直結して荒茶生産が始まる。静岡では刈取り茶葉を袋詰めて茶工場に運ぶ、この作業が省力化。常に工夫し、合理化・省力化を図っていた。茶の閑散期は茶園整備を進め、有機栽培面積を拡大している。碾茶は霧島の西製茶に委託している。今後、有機栽培の碾茶比率を多くし、生産拡大を図るそうだ。見習うことが多いと感じた。

鹿児島県霧島市 西製茶工場



茶業界では有名な『西製茶』を視察した。西製茶に到着すると抹茶と野菜でんぶらの接待を受けた。奥様は牧之原出身と伺った。当日、茶摘みには牧之原から女性が応援に来ていた。西社長の説明では、茶園はすべて有機栽培で、牛糞を酵素で発酵させた『ぼかし肥料』を年8回程度、茶樹に撒くため、茶葉の味は非常に良いそうだ。静岡県では環境汚染のため、窒素肥料を40%に絞って与えている。だから静岡の茶がまずいと言われる。秋には西社長自身が山を切り崩し、茶園を造成し、拡大している。米国の有機の碾茶認証は国内では、西製茶と藤枝の丸七製茶しか取得していない。ちょうど前日には丸七製茶の社長が来社していたそうだ。丸七製茶は静岡県の碾茶の大半(200t)を生産している。西製茶は山間地で栽培している。全国から視察が訪れている。お茶は栽培から製造販売まで一体での取組が必要と思う。



災害現場山頂に東海大学 土砂災害で埋まった住宅 火山系の崩れやすい地質 四国・中国地方の消防隊 自衛隊、警察隊が続々来る 捜索は3時間交代で実施
大学生達が住むアパート 1階部分が崩壊している 滅茶苦茶崩壊のアパート 1階には潰れた車両 避難所の長陽西部小学校 福岡県警のパトロール隊
崩落した阿蘇大橋近くの東海大学農学部入口 この先が阿蘇大橋だが危険防止は赤コーン 落下した橋床部の写真バリケードが無く危険 阿蘇大橋を落下させた頂上から崩れた土砂 対岸の道路は崩壊ですべて通行止め 崩壊寸前、阿蘇大橋近くのコンビニ駐車場
益城町総合体育館避難所 体育館内の救援物資 浜松日赤から医師が応援 家庭のゴミ収集場所 益城町役場横の救援物資 国交省静岡事務所通信車
静岡県建築判定士職員 被災住宅の調査 危険表示を貼る。 ガスボンベ・温水器倒壊 益城町中心部の状況 建物崩壊が各所に存在
地表に現れた断層地割れ コンクリート壁も地割れ どこまでも続く地割れ 耕作できない田んぼ 地割れ写真撮影ドローン 崩れた宇土市役所